

一民選議院變則論ノ續

一政體三種說

明六雜誌

第二十八號



一
定
信
四
錢

頃日吾儕盍簪シ或ハ事理ヲ論シ或ハ
異聞ヲ談シ一ハ以テ學業ヲ研磨シ一
ハ以テ精神ヲ爽快ニス其談論筆記ス
ル所積テ冊ヲ成スニ及ヒ之ヲ鏤行シ
以テ同好ノ士ニ頒ツ瑣々タル小冊ナ
リト雖凡邦人ノ爲ニ智識ヲ開クノ一
助ト爲ラハ幸甚

明治甲戌二月

明六同社識

明六社雜誌第二十八號明治八年二月刊行

○民選議院變則論前號ノ續

阪谷 素

サテ民選議院ヲ早々起スト申シタ所ガ前ニ申シマシタ通り其形ハ同
シ事デモ國々風習ガ異ヒマスカラ自分ノ足ニ合フ形摸^カテ靴^タヲ作ラヌ
トイケマセヌ只今民選ノ諸説デハ實地ヲ正サズ唯盛ニ唱ヘラレマス
成程ムヤミニ唱ヘテハ始マラヌ氣味モアリ又賢ユイ御方ガ臨機應變
甘ク考モ付クト云フ積リテ御坐リマシヤウガ其甘クト云フ事ハ此様
ト大事ニナリテハ大豪傑ガ大變亂ノ後ニ遇テモ餘程苦シマヌトイケ
マセヌ話聖東君ノ苦シマレタチ見テモ知レマス小イ事デモ三谷ヤ小
野ノ手合ガ商法ヲ甘クヤル積リガ家ヲ潰シマシタ民選議院ハ山ヲハ
イケマセヌ殊ニ積漸ノ勢上ノ壓抑ガ強キユヘ上カラ其積リニ仕カケ
ヌト出來マセヌ上ノ御腹ガキマラヌニ府ヤ縣デマチノ^カナル法制ヲ立
テ實行ノ見込ナキ議會ヲ起シマシテモ起サヌニマスカハ存シマセヌ

が大抵ハ評判バカリデ民ノ費ヲ増シ知事ヤ參事ノ顔色ヲ見ル姦民ド
モノ巢窟ニナルカ又ハ縣廳ト讎敵ニナルカノ二ツデ御坐リマスヨシ
又縣吏ト同説ニナリマシテ大政府マデ達シテモ政府ノ都合ニヨリ行
ハレマセヌト暴怒ヲ發セテバ其マヽノコニナリ氣ガ挫ケテ空論ヤ新
聞紙ノ戲謔同様ノコニナリマス一區一村ノコハ是マデトテモ組合ノ
ノ寄合相談ト申スコガアリマシテ念佛講トカ妙見講トカ申スコノ次
手ニモ多ク實地ノ相談ヲシマスルガ固リ抑制ノ世ノ中大抵奉承ノコ
ノミ時々願立ル事アルモ抑ヘラレルト騒立ノ相談モシマスツマリノ
處今日ニテ會議ノ名目ヲ強ク立ルト先ハ一揆騒動ノ本ニナリマスコ
レニヨリ民權ヲ強クシ政府ヲ推シ倒シテ民選議院ニスル目的ナラバ
トモカクト申タケレド前申ス奴隸國ニスル相談カト存シマス此處ヲ
考ヘズシテ何程奮發シテ下ヨリ繰上ント致シテモ上ヨリソレハナラ
ヌ行ヘヌ其様ナ事ハ議スナト唯一行一枚ノ令ガ下レババツタリ止ズ

バナリマスマイ夫チ止チバ最早腕ツク政府ト喧嘩ノ外ハナシ政府ニ
モ早イ早イト自然マカセニスルニモ當時ノ一黙テ寢テモ居ラレマセ
ヌカラ本ノ立ヌ枝葉チアチコチトツ、キマスルト三千年ノ舊習モ時
勢ニツレテドコヅノ程カラ暴發瓦解自然マカセノ向フ見ズメツタヤ
タラノ盲撃上^{メクラウチ}ニモ暴發ハ受ラレマセヌカラ大戦争トナリマスソコデ
民選議院ガ自然ニ起リ文明開化ノ度ガ進ムカハシリマセンガ残念ナ
事ハ世界一品タル皇統ガ危クナリマス又佛郎察ナド、異ヒ人氣モ狹
隘國^シモ小ク兄弟喧嘩ヨリ負テハナラヌノアソビツシヨソニテ愛國^{マトリオケスム}モ
同情相憐^シモ忘レ外國ノオダテニ乘リ器械彈藥勝手ニ買入後チ關ハス
抵當物チ出シ君チ立ル立ヌノ喧嘩ト同様ニナリマスソコデ外國人カ
ラ土地ハ私シガ預リ物ユヘ荒サレテハ直段ガ下ル喧嘩ガシタクハ海
ノ上デ爲^{ナサ}レ御留守ノ仕事ニ豆イツテ食シユト謂ハレルト例ノ宿ナシ
奴隸ニナリマス總テ此ノ後己ノ自由チ張テ天子ニナロフ大統領將軍

ニナロフト謀反チ企ツルヤツハ皆此借金無宿ト云奴隸ニナル馬鹿者
 デ御坐リマス外國ト交リダシテハ我國ハ各住居ノ家ノ如クニテ一身
 ノ爲ニリキンダリ我儘チスルハ皆宿ナシニナル稽古ニナリマス此宿
 ナシダケハ何程戸籍ヲ調べテモ入ドコロハ御坐リマスマ井ソレユヘ
 我國デハ何デモ上ヨリ民選議院チ御立ニナル順チ立チバナリマセン
 凡物事小兒ノエシケイシヨンノ通り初メノ癖ガ大事ニテ魯西亞ノ代
 ヲ弑殺ノ禍アル佛郎察ノ如キ開化國ニテ共和ニセントスルモヤハリ
 立君癖ノ絶ザルハ皆女ノ西洋ハ腰チシメ支那ハ足チ小クシ日本ハ大
 帯チ結ブト同シ事デ御坐リマシテ初ニ腦髓エシミ込トムツカシキユ
 ヘ程能長立スル様ニスルガ亦プロテクシヨンノ道デゴサリマス故今
 ノ所急イデナラズ急ガズテナラス獨裁ヨリ同治ニ移ス蝶ツガ井ガ大
 事デ御坐リマス歐米ノ民權チ以テ政府チ壓倒シテカラ民選議院トナ
 リ然ル後ニコレハ上下同治トカ君民同權トカ名目チ付シト異ヒ我國

ハ前文ニ申ス萬國一品タル一姓ノ勢ヒニテ吾妻邊ノ者ハ天公トカ禁
公トカ申ス馬鹿癡アレドヤハリ腦髓ニシミ込デ居マス故コレナキ
ト國ハ立ズ例ノ奴隸ニナリマスソコデ今日ノ勢ト又義務ノ當然トコ
付皇統人民ノ保護ハ必ズ上下同治ト確定シ因循ナル自然說ヲヤメ小
刀細工ヲセズ又躁暴ナル急進說ヲヤメ荒クシ仕事ハ先ツ差置萬事此
上下同治ヲ目的トシテ此所ニ落付様ニ處置ノ順序ヲ爲スガ第一ト存
シマスソコデ民選議院ヲ立ルニハ官選議院カラ始ルガヨロシ民選ノ
事ハ今誰モ習レズ理窟バカリデー一ツモ實地ニ當ラスヤレソレト云タ
所が大騒ギバカリデムダナル費トナリ無筋ノロカールホルクトナル
バカリデ御坐リマス凍シ者ヤ餓シ者ヲ度ガコストテ自然ヲ待ハ馬鹿
ナリ又卒ニ熱氣ニ近ケ大食ヲサスルモ馬鹿ナリ先ツ療法ハ如此ト確
定シテ徐々ニ藁火ヤ薄粥デ道ヲ付ルト存外早ク丈夫ニナリマス因テ
今日ハ正則ニ入ル所ノ變則ヨリ早ク始ルガ却テ正則ノスシユヘ同治

ノ目的立ヤ否一刻モ早ク官選ヲ起スガヨロシ當時ノ官員方ハ大抵人
選ニテ學者多シ又東京府下ニ人物集リ居マス因テ公論ニヨリ官選シ
マス既ニ此席上ニ於テモ諸先生始多クハ入選ノ御方ト存シマス其他
社ヲ結ブ結バザルニ限ラズ有名有志ノ入選スベキ者イクラモ有又諸
國ニ社名ヲ立シ組及ヒ自ラ守テ世ニ競ハザル者アリ凡學術民事等其
長ズル所ニ隨ヒ一道ヨリ二人又ハ三四人精密ニ官選シ其禮ヲ厚クシ
年々次第ニ加ヘ議風議法ニ習レ且學校ノ教ニツレ開化ノ進ムニ隨ヒ
其人數ヲ増シテ選ビ會法議法ヨリ議定シ行ト議ヲ合一ニシテ秘密抑
制ヲ痛除シ然ル後租稅法律外國交際金貨ノ處置順次ニ論定施シ行フ
ベシ諸縣ニ於テハ縣會區會其宜ヲ酌デ一定ノ法ヲ頒チ各地ニ興ス中
小學校ノ如ク致テ傑出ノ者ヲ東京ニ選拔シ或ハ官職ニ補スレバ官路
人選ノ法モ亦此ヨリ立チマス諸道人員ノ加ハルニ隨ヒ官員ノ議官ヲ
兼ル者ヲ減シ漸クニ民選ノ法ヲ定ム佛賢泊人^{ボシ}ノ言ヘル草木ノ長ズル

如クニシテ徐々間斷ナクセバ十年カ十二三年ニハ純然タル我國ノ風
土ニ合シ英米議院ノ眞意ト符合セシ眞實自然ノ正則民選議院トナリ
マス其費用ノ如キ小子別ニ説アリ何ノ費カアラシ容易ノコト存シマ
ス如此致シカケマスト中頃政府イヤニナリシトテ千枚ノ令ヲ下スト
モ一旦同權ノ本定ル時ハ決シテ動カスコトハ出來ズ又ホルクノ暴權ヲ
弄スルコトモナラズ所謂スターツスウエローチーテート此處デコソシ
カト立マヌル上下トモ色々ナルアンビツシヨシテ禁絶シテ一刻モ早
ク此上下同治ノ目的ヲ願フベキ事ト存シマス然シ此目的ノ實地ハ上
ノ勇斷ニ在ルコトデ御坐リマスカラナサラスト此後ノ勢躁暴ナル民選
トナルカ奴隸トナルカ皇統人民ノプロテクシヨシハ何トナルカ三千
万人ノ難義ヤラ自分ノ難義ヤラ考ヘマスト何ナリト自分ノ分限ダケ
ハ尽力致シテモ杞憂トカ申ス事ニタヘマセヌ故ヘタノ長談義後坐ノ
妨ゲト存ナガラ申シノベ御正シ申シマヌル

○政体三種説上

西村茂樹

人君獨裁、君民同治、平民共和ヲ以テ三種ノ政体ト爲スハ天下ノ通論ナリ、余ハ其説ヲ異ニシ、因襲政治、因襲道理混合政治、道理政治、ノ三種ト爲サント欲ス、

第一因襲政治 因襲政治ハ、イカナル政体ヲ論ゼズ、スベテ其建國ノ時ノ政体ヲ以テ善美ナリトシ、少シモ其可否ヲ考ヘズ、只管コレニ因襲シテ政治ヲ爲ス者ナリ、倩諸國ノ建國ノ有様ヲ案ズルニ、上古ノ時其民無智蒙昧ナルヲ禽獸ノ如ク、禮義ナク交際ナシ、久ラシテ豪膽強力ノ人其間ニ興リ、威力ヲ以テ其民ヲ壓伏シ、自其酋長ト爲リ、号令ヲ其域内ニ行フ、巴比倫亞述及亞細亞歐羅巴ノ諸國ノ建國ノ狀ハ此類ノ者ヲ多シトス、是ヲ第一種ト爲ス、上古ノ時其民各一部落ヲ畫シテ自限ル、智者出ルニ及び、全部ノ安全ヲ謀ルガ爲ニ其諸部落ヲ協和聚合シ、盟約ヲ定メ以テ互ニ相親交ス、希臘ノ十二邑ノ協同シテ國ヲ治ムルガ如キ者はナリ、

是ヲ第二種ト爲ス、上古ノ時、全部落ノ民唯一家族ヨリ成ル者アリ、其族中ノ者相合シ、族長ヲ推シテ其命ヲ聽ク、君主ノ命ヲ聽クガ如シ、猶太ノ國初ノ如キ者はナリ、是ヲ第三種ト爲ス、第一種ハ人君獨裁ノ起原、第二種ハ共和政治ノ起原、第三種ハ一族政治ノ起原ナリ、然ルニ第二第三ノ兩種ハ早ク絶滅シ、上古ヨリ連續シテ今日ニ存スル者ハ唯第一種ノミナリ、故ニ今日ヨリ之ヲ言ヘバ、因襲政治ハ人君獨裁ノ別名トスルモ可ナリ、

第二因襲道理混合政治　方今此混合政治ヲ行フ國々モ其初ハ皆單ニ因襲政治ヲ行ヒシ者ナリ、然ルニ民ノ智識大ニ闡ケ、因襲政治ノ國ニ利アラザルヲ覺リ、或ハ兵力ヲ用ヒ、或ハ論說ヲ用ヒテ其政体ヲ改メ、國民習慣ノ良否ト開化ノ淺深ニ從ヒ、一半ハ因襲ニ依リ、一半ハ道理ニ憑リテ其政体ヲ定メシ者ナリ、歐羅巴ノ諸國此政体ヲ行フ者多ク、大抵人君獨裁ノ因襲ト平民共和ノ道理トヲ混合スル者ニシテ、即チ君民同治、

又ハ制限アル君主政治ト稱スル者は是ナリ、故ニ君民同治ノ政体ハ、因襲
道理混合政治ノ別名トスルモ可ナリ、

第三道理政治 此政体ヲ立ルノ國ハ、其建國最モ後世ニシテ民ノ智識
已ニ開ケシ時ニ在リ、舊國ニテハ混合政治ヲ興スノ時ニ當レヒ、新國ニ
テハ舊來ノ習慣ナケレバ因襲政治ヲ混ズルノ患ナク、唯道理ヲ講究シ
テ其政体ヲ立ル故ニ、純然タル道理政治ヲ立ルヲ得ルナリ、道理上ヨ
リシテ之ヲ論ズル所ハ、平民共和ヨリ善キ政体ハナカルベシ、故ニ平民
共和ノ政体ハ道理政治ノ別名トスルモ可ナリ、然レヒ其建國ノ時ノ情
狀ニ依リテ新國ト雖ヒ或ハ因襲政治ヲ混合セザル能ハザルヲアリ、希
臘比利時ノ如キ是ナリ、故ニ新國ナレバ必皆道理政治ヲ立ルニト云フ
ニ非ザレヒ、舊國ニ於テ昔ヨリ道理政治ヲ立來リシト云フハ未タ聞ザ
ル所ナリ、

因襲政治ハ其始上古ノ時ニ起リシ者ナレバ是ヲ上古ノ政体ト云フベ

シ、混合政治ハ近古ニ興リシ者ナレバ、是ヲ近古ノ政体ト云フベシ、道理
政治ハ後代ニ起リシ者ナレバ（瑞士國ノ起リハ中古史ノ中ニ在レトモ）
法英等ノ國ニ比スレバ大ニ後ル、故ニ之ヲ後代ト云フモ亦誣ザルベシ、
是ヲ後代ノ政体ト云フベシ、今日ニ至リテハ、上古ノ政体ハ既ニ廢滅ス
ベキナルニ、猶儼然トシテ近古後代ノ政体ト並ビ存スル者ハ何ツヤ、是
ヲ地質ニ喩フ、花剛石ノ如キハ地ノ基礎ニシテ前世界中最も古ノ物ナレ
ト猶地上ニ突起シテ形ヲ今日ノ世界ニ現ハス所多シ、政体ニ上古近古
後代ノ三種アレトモ、今日ノ世界ニ駢列スル者ハ、恰モ花剛石礦物泥
土ト共ニ今日ノ地面ニ現ハル、ガ如シ、
以上論ズル所ニ據テ之ヲ見レバ、因襲政治ハ蒙昧ノ政体ニシテ、混合政
体ハ蒙昧ニ明智ヲ兼タル政体、道理政治ハ純ニ明智ノ政体ナルガ如シ、
然ルニ因襲政治ヲ行フノ國或ハ治平又安ニシテ道理政ヲ行フノ國、或
ハ動亂ナキヲ保ツト能ハズ、是大ニ疑フベキナリ、

○政体三種説下

西村茂樹

凡政治ヲ論ズル者ハ道理ト功驗トヲ分ツテ之ヲ論ゼザルベカラズ、道理上ヨリ之ヲ論ズレバ道理政治ヲ以テ第一トスベキコトハ問ハズシテ之ヲ知ルベシ、功驗上ヨリ之ヲ論スレバ、混合政治、或ハ道理政治ニ勝ルコトアリ、其故何ツヤ、凡ソ政治ハ、民ノ開化ノ度ニ從フベキ者ニテ、其國ノ政体、其民ノ開化ノ度ニ應ズレバ治マリ、應ゼザレバ治マラズ、因襲政治ヲ行フテ其國ノ治平ナルハ、其民ノ智識未開ケズシテ此政体ニ適應シタルナリ、混合政治ヲ行フテ其國ノ富盛ナルハ其民ノ智識大ニ開ケテ此政体ニ適應シタルナリ、道理政治ヲ行フテ其民ノ幸福混合政治ニ勝ラザル者ハ其民ノ智識大ニ開ケタリト雖モ未ダ道理政治ニ適應セザルナリ、

方今歐米諸國ノ民其智識ノ開明、最高ノ度ニ進ムニ似タリ、然ルニ猶道理政治ニ適應セズト云フ者ハ何ツヤ、夫道理政治ハ政体中ノ至美至善

ナル者ナリ、此政体ニ適應スル者ハ至美至善ノ民ニ非ザレバ能ハズ、至美至善ノ民トハ何如ナル者ヲ云フ、其民國ヲ愛スルノ心深クシテ、能ク己ガ職分ヲ尽シ、妬忌ノ念ナク、驕傲ノ心ナク、忠厚ヲ以テ相助ケ、公道ヲ以テ相交ル、此ノ如キヲ至美至善ノ民ト云フ、歐米諸國固ヨリ此ノ如キノ民多カルベシ、然レモ全國皆此ノ如シト云フハ未ダナリ、全國皆此民ト爲ルニ非ザレバ眞ニ道理政治ニ適應スルコト能ハズ、故ニ余謂ヘラク道理政治ハ今日ノ政治ニ非ズシテ未來ノ世ノ政治ナリ、然レモ未來ノ世ニ至リテ天下ノ民果シテ能ク至美至善ト爲ルヤ否ハ、吾儕亦之ヲ保ツコト能ハザルナリ、

因襲政治ヲ行フテ其國ノ治平ナルハ、是ヲ虛弱ノ人ニ喩フ、苟モ外邪ノ侵犯、内毒ノ潰出ニ逢ハザルノ間ハ、名クベキノ病ナキヲ以テ、自ラ健康ノ人ナリト謂ヘリ、然レモ之ヲ眞ノ健康ノ人ニ比スレバ、体格羸瘦、血色青蒼、一見シテ其虛弱人タルコト知ル、平生無恙ノ時ト雖モ眞ノ健康ノ

人ト並ンテ業作ヲ爲ス可能ハズ、一旦内外ノ病患ニ遇フ片ハ、衰憊委頓
シテ死亡ニ至ラザル者幾罕ナリ、盖因襲政治ニ安ンズルノ民ハ大抵自
主自立ノ氣ナク、抑壓ノ政ニ甘ンシテ卑屈風ヲ爲ス、是其常ニ衰兆ヲ顯
ハス所以ナリ、

道理上ヨリ之ヲ論スレバ、道理政治ヲ以テ上等ト爲スベシ、功驗上ヨリ
論ズレバ、道理政治混合政治共ニ上等ニシテ優劣ヲ分タズ、因襲政治ニ
至テハ、道理上ヨリ之ヲ論スルモ、功驗上ヨリ之ヲ論ズルモ共ニ下等ニ
屬スル可疑ナシ、

然ラハ魯西亞ノ人君獨裁ノ政ヲ行フテ其國ノ強大ナルハイカン、曰ク
魯國ノ強大ナルハ、君相ニ雄材ノ人アルヲ頼ムノミ、天下或ハ攝生不長
ニシテ其身健康ナル者アリ、其頼ム所ヲ問ヘバ唯天稟ノ強壯ノミ、魯西
亞ノ事ハ何ヲ以テ之ニ異ナラン、然レハ魯西亞ハ幸ニシテ雄材ノ主世
出シテ其威名ヲ墜サズ、若シ其君魯西亞ノ雄材ニ非ズ、其民英法ノ穎敏

ニ非ズシテ因襲政治ヲ以テ其國ヲ保全セントスルハ最難キ事ト云フ
ベシ、

然レハ因襲政治ヲ行フ國ニ於テ速ニ其政体ヲ改メテ混合政治或ハ道
理政治ト爲スベキカ、曰ク不可ナリ、因襲政治ノ混合政治ト爲スベカラ
ザルハ、猶混合政治ノ道理政治ト爲スベカラザルガ如シ、夫因襲政治ヲ
行フテ其國ノ安全ナルハ、其民ノ開化、猶此政体ニ適スルナリ、此時ニ於
テ速カニ他ノ政体ヲ行フキハ、愚民ハ其然ル所以ヲ解セズ、猾者或ハ之
ニ乗シ不軌ヲ謀ル者アリテ却テ國ノ擾亂ヲ起スベシ、然レモ其民智識
漸ク開ケ、因襲政治ニ安ンゼザルノ兆ヲ現サバ、速カニ之ヲ改メテ他ノ
政治ヲ爲スベシ、因襲ノ固陋ヲ以テ民ノ智識ヲ束縛スベカラズ、若シ民
智ノ既ニ開クルヲ知ラス、因襲ノ舊法ヲ以テ其民ヲ壓制スル、ト亞伯勒
ノ瑞士人ヲ馭シ、查爾斯第一ノ英人ヲ治ムル如クナル時ハ、内亂ノ起ル
足ヲ翹ゲテ待ツベキナリ、然レモ此内亂翻テ國ノ幸福トナルヤ否ハ、吾

儕ノ料リ知ル能ハザル所ナリ、

明治八年一月十六日

稟 白

一代價の毎号不同に付豫め決定仕業候得共前金にて發兌號々先二十冊分御引受の一割引五十冊分の一割半百冊分の一割引にて差上過不足の追て算當の上可申上候

一府下おて御望の方の町所名前前御投書次第發兌毎よ配達可仕遠國の府下おて御引受の御方より前金郵便税共受取不申内の遞送不仕候

東京藥研堀町

賣捌所 報 知 社

明治七年三月

大坂本町四丁目

取次所 河内屋具七

